全国の火山活動状況（１９８４年４月～６月）

気象庁地震火山部地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山とその他の火山について，１９８４年４月以降６月末までの活動状況を，この期間内に得られた情報などを基に要約した。

火山情報発表状況は第１表に，全国火山活動概況を第２表に示す。

第１表　火山情報発表状況（１９８４年４～６月）

情報＼火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	有珠山	北海道駒ケ岳	吾妻山	安達太良山	磐梯山	那須岳	草津白根山	三宅島	雲仙岳	霧島山
定期	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
臨時	4	1												1			
火山活動																	

第２表　全国火山活動概況（１９８４年４～６月）

Table 2. Volcanic Activity in Japan
(From Apr. 1984 to Jun. 1984)

Volcano＼Month	4	5	6
Sakurajima	▲	▲	▲
Asosan	△		
Kusatsu−Shiranesan		△	
Unzendake		△	
Suwanosejima	△	▲	
Fukutoku−Oka−no−Ba	△	△	△
Kaitoku Kaizan	△	△	△

▲ Eruption　　△ Anomaly

桜　島

噴火活動，地震活動とも高いレベルの活動を持続している。このため，噴石の落下による，自動車のフロントガラスの破損，爆発の空振による民家の窓ガラスの破損等の被害が発生した。噴火回数，爆発回数の月別推移を第３表に示した。また，降雨のため，土石流が発生し，道路に土砂があふれ，一時通行止めとなった。

第３表　桜島火山観測資料

月	4	5	6
噴火回数	26(25)	47(43)	55(42)
地震回数	1143	5240	5202
微動継続時間合計 (h)	9	24	155

(　)内：爆発回数

主な爆発とその状況および土石流被害は次のとおり。

・４月12日09時41分の爆発は，爆発音・空振ともに大きく，やや多量の噴煙を2300mの高さに噴き上げ，多量の噴石を５合目まで飛散させた。なお，宮崎地方気象台でも空振を感じた。この爆発に伴った空振により，島の南部古里温泉のホテルの玄関のガラスなど２枚，東部黒神小学校の窓ガラス１枚が破損した。また，鹿児島市街地にある県警察本部や種子屋久航路待合所の窓ガラス各１枚も空振で破損した。空振による鹿児島市内（火口の西約10km）での被害は，昭和58年9月20日にも発生しているが，珍らしいことであった。

・４月29日18時00分の爆発は，爆発音・空振ともに大きく，やや多量の噴煙を2300mの高さに噴き上げ，火山雷を１０回伴い，多量の噴石を３合目まで飛散させた。この爆発で山火事が十数か所発生し，南岳南西側３合目のものは３０分間続いた。また，空振で鹿児島市内鴨池町の商店の窓ガラス１枚が破損した。

・４月19日早朝の降雨により，08時過ぎ，桜島の南部，第２古里川で土石流が発生し，国道に土石があふれ，一時通行止めとなった。また，東部黒神川でも土石流が発生し，県道を一時通行止めにした。

・５月４日08時10分，５月８日13時52分の爆発は，いずれも爆発音・空振ともに大きく，多量の噴石を４合目まで飛散させた。このうち，４日の爆発に伴う空振は，宮崎市・都城市・人吉市でも感じられ，その空振により，鹿児島市内易居町で窓ガラス１枚が割れた。８日の空振は宮崎市でも感じた。
また，空振により島の南西部野尻町の病院一階出入口のガラスが１枚破損した。

・５月31日早朝からの降雨により，10時20分ころ，桜島の野尻川・持木川・黒神川で土石流が発生した。持木川・野尻川では被害はなかったが，黒神川では土石が県道にあふれたため，約３時間にわたって通行止めになった。

・６月２～４日は，爆発と連続噴煙に伴って，火山灰を連日噴出し，東寄りの風のために，鹿児島市街では多量の降灰に見舞われ，市民生活に大きな影響を与えた。

・６月に気象台で降灰を観測した延べ日数は１２日で，月間総降灰量は2423g/m^2であった。これは４日

の日降灰量1080g/m^2とともに，昭和44年4月に降灰の観測を開始して以来の記録を更新した。

・6月3日11時49分の爆発は，爆発音・空振ともに大きく，多量の噴煙を2500m以上に噴き上げ，鳴動が60秒間続いたほか，宮崎市・都城市でも空振を感じた。この空振により，桜島町横山で窓ガラスが破損し，1名が負傷した。また，桜島中学校と桜島町小池の民家で窓ガラス3枚が破損した。

・6月7日21時57分の噴火では，島の北東部高免町に直径5cm程の噴石や火山礫が降り，自動車11台のフロントガラスや民家の窓ガラス1枚を破損する被害があった。

・6月8日夜半からの強い降雨のため，01時過ぎ第2古里川と黒神川で土石流が発生し，土石が道路にあふれ，それぞれ4時間と9時間にわたって通行止めとなった。黒神地区では送水用水道管2本が切断された。

・6月10日03時30分ころ，黒神川で土石流が発生し，土砂が県道にあふれ，10時ころまで通行止めになった。

阿蘇山

中岳第1火口は，全面湯だまりが続いていたが，4月上旬から湯量が減りはじめ，6月はじめには，4月末に比べ，4m前後の減少となった。しかし，梅雨期に入って，やや増加し，6月末の観測では，6月はじめに比べ約1m水位があがっている。

噴湯は引き続き南側で観測され，北側でも弱いものが観測された。また，北側火口壁下では，4月中旬から新しく土砂の噴出がはじまり，4月16日の現地観測では土砂を1～2mの高さに噴き上げているのが確認され，「バシャ，バシャ」と言う音も観測された。5月は噴出音のほか，1m前後の土砂噴出も観測されたが，その後噴湯だけとなった。しかし，6月はまた小さな土砂噴出が観測された。

噴気は，4月は南側と南西側火口壁中腹のものが活発であり，硫黄やその他の昇華物の付着が一段と増加した。また，臭気もやや強くなった。5月と6月は噴気・臭気とも特に変化は認められなかった。

火山性地震回数・孤立型微動回数の月別推移は第4表のとおりである。

第4表　阿蘇火山観測資料

月	4	5	6
地震回数	97	93	123
孤立型微動回数（0.5μ以上）	179	82	48
連続微動平均振幅(μ)	0.1～0.4	0.2～0.1	0.1

なお，赤外線放射温度計による，湯だまり中央部付近の最高温度（表面）は次のとおり。

測定日	4月15日	5月26日	6月1日	6月8日
温度℃	57	61	65	60*

＊：湯だまり南側の温度

浅間山

4月から6月までの地震回数は第5表のとおりで，地震活動は引き続き低調であった。また，噴煙は多いときでも，中量がときどき観測される程度で，噴煙高度の最高は5月5日の800mであった。

4月20日，26日，6月14日，15日，18日に浅間山周辺の現地観測を実施したが，特に異常は認められなかった。

5月24日，火口の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。噴煙は西側火口壁，火口底東側，南東火口壁，南東火口縁の4か所から噴出しており，噴出力は西側火口壁が強く，その他は弱かった。噴煙の色は火口底東側と南東火口壁がやや灰白色で，その他は白色であった。噴気音はなかった。総合して昨年5月，10月の観測時と特に変わりはなかった。

第5表　浅間火山観測資料（地震回数）

観測点＼月	4	5	6
A	5	7	12
B	106	151	111
C	60	95	73
D	4	1	6
E	24	30	24

伊豆大島

4月から6月までの地震回数は第6表のとおりで，4月22日から活発化した小地震は，5月，6月にはいっても引き続き多数記録されたが，6月中・下旬には次第に少なくなった。しかし，これらの地震はいずれも大島およびそのごく近傍で起ったものと推定される。そのうち，大島測候所で人体に感じたものは次のとおり。

第6表　伊豆大島火山観測資料（地震回数）

観測点＼月	4	5	6
A	20	49	45
B	47	93	64
C	101	161	105

月＼震度	I	II	III	計
4	1		1	2
5	4	2		6
6	4		1	5
計	9	2	2	13

4月23日，5月4日，6月6日，16日に火口の現地観測を実施したが，噴気がわずかに観測されただけで，特に異常は認められなかった。

雌阿寒岳（釧路地方気象台　5月31日火山情報）

5月29，30日，雌阿寒岳の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

(1)　ポンマチネシリ火口（本峰）

ポンマチネシリの第4火口周辺では，熱泥の噴出範囲が前回（昨年9月）の状況よりやや広くなっていたほかは，各火口とも特に変化は認められなかった。

(2)　中マチネシリ火口群

各噴気孔は相変らず活発な噴気活動を続けており，火口全体が噴煙におおわれ詳細は不明であった。
火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	61	86	95	23	8	9	5	48	50	100

十勝岳（旭川地方気象台　6月23日火山情報）

6月21，22日に十勝岳の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

(1) 62−2火口は相変らず活発な活動を続けており，強い刺激臭の噴煙を多量に噴出している。

(2) 大正火口は，ごく弱い噴気活動を続けているが，火口壁東側で小さな噴気孔からやや勢いの強い噴気活動をしているのが観測された。

(3) 丸山−新丘間の亀裂付近では，前回（昨年9月）同様，数 cm の噴気孔が多数あり，ごく弱い噴気活動を続けている。

(4) 安政火口では，大小数多くの噴気孔があり，活発な活動を続けている。

(5) 62−1火口壁からの噴気は，昨年の9月に比べて噴気地帯も拡がってかなり活発になっており，噴気温度も300℃を越える所があった。

(6) その他，振子沢・旧磯部跡・湯の沢では，前回同様，弱い噴気活動を続けている。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	12	11	9	3	39	4	15	46	31	15

樽前山（苫小牧測候所　5月31日火山情報）

5月28〜30日，樽前山の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

昨年10月に高温の地熱が認められたドーム西火口原の地中温度は，高温の所でも90〜96℃で大きな変化はなかった。また，ドーム南西側噴気孔群の地中温度は315℃であった（昨年の測定値は325℃）。その他の火口および噴気孔付近の状況も変化はなかった。

苫小牧市内からの遠望観測によると，噴煙の状況は，風の弱いときなど噴煙の高さが数100mに達することもあったが，特に異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	5	26	27	90	6	4	5	7	1

有珠山（室蘭地方気象台　5月29日火山情報）

5月23，24日，有珠山と昭和新山の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

(1) 有珠山

銀沼火口，Ⅰ火口および小有珠南東斜面等では相変らず，活発な噴気活動が続き，噴気温度が600℃を越える場所があった。また，南外輪の外側で噴気量の増加した箇所があるが，噴気温度には変化がなかった。その他の外輪山や北屏風山の地熱地帯の噴気には変化はなく，周辺の状況にも変化はなかった。

(2) 昭和新山

前回（昨年10月）と比べ，特に変化はなかった。

(3) 四十三山

噴気や周辺の状況に変化はなかった。

気象台からの遠望観測によっても，有珠山・昭和新山とも噴煙量に大きな変化はなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	7	12	12	8	15	10	12	6	7

北海道駒ケ岳（森測候所　5月25日火山情報）

5月21日，北海道駒ケ岳の現地観測を実施したが，前回（昨年10月）と比べ，各観測点の噴気量，地中温度および火山性ガスの測定値に大きな変化はなかった。噴煙は昨年10月以降観測されていない。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	0	0	0	0	0	0	1	0	0

吾妻山（福島地方気象台　6月14日火山情報）

6月5，6日に吾妻山の現地観測を実施したが，各観測点とも，特に異常は認められなかった。

気象台からの遠望観測によると，噴煙量は少なく，噴煙の認められない日が多かった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	10	2	3	2	5	1	1	1	4	3

安達太良山（福島地方気象台　6月16日火山情報）

6月8，12，13日に安達太良山の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

鉄山南斜面噴気地帯で，しばらくの間検出されなかった二酸化硫黄が少量検知されたが，その他の観測点では，特に異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	4	1	2	2	0	4	0	2	1	0

磐梯山（若松測候所　6月15日火山情報）

6月5，6日に磐梯山の現地観測を実施したが，前回（昨年10月）の観測と比較し，各観測点とも特に異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	4	2	2	5	1	3	3	5	6	8

那須岳（宇都宮地方気象台　6月5日火山情報）

5月30，31日に那須岳の現地観測を実施したが，前回（昨年10月）の観測と比較し，各観測点とも，特に異常は認められなかった。

那須岳火山観測所からの遠望観測では，噴煙は少量で，色は白色または灰白色で特に変化は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	58年 9	10	11	12	59年 1	2	3	4	5	6
回　数	35	12	18	26	16	34	26	22	28	26

草津白根山（前橋地方気象台　4月20日，5月30日，6月18日火山情報）

4月18日と6月14日草津白根山の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

(1) 4月18日の観測，湯釜西側の火口（No.2）からは，青白色の噴気を約40mの高さまで噴き上げ，北西側の火口（No.6）からも小量の白煙が認められた。また，西側の火口壁で，一部崩落が認められた。湯釜の氷は完全にとけており，湯釜西端での湖水の温度は7.7℃であった。なお，湖面の南部分の一部で湧水が認められた。

(2) 6月14日の観測，湯釜西側の火口（No.2）の噴気は，前回（4月18日）より少な目であったが，北西側の火口（No.6）からは約30mの白煙が認められた。湯釜の温度は19.3℃であった。なお，今回も湖面の南部分の一部で湧水が認められ，水位は前回（4月18日）より上昇していた。

(3) 火山性地震は，4月は12回と少なく，5月も28日まで15回と少なかったが，29日になって急増し，29日38回，30日45回となった。また，6月も23日54回，24日19回と多発した。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	4	5	6
回　数	12	98	111

三宅島（三宅島測候所　6月29日火山情報）

6月18，19，28日に雄山の現地観測を実施した。その結果は次のとおり。

噴気地帯の噴気量は前回（3月）に比べ，ほとんど変化はなかった。噴気温度，地中温度は多少の高低

はあるが，特に異常はなかった。新鼻に出来た火山砕屑丘の地中温度は若干低くなっていた。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	4	5	6
回　数	23	23	18

これには，三宅島近海の地震も含まれている。

雲仙岳（雲仙岳測候所　報告）

雲仙岳では5月，6月とも地震活動がやや活発であった。5月は9，17，20，22，29日に地震が群発した。6月はやや減少したが，13日は15時20分ころ地震が群発し始め，24時00分までに約100回発生した。そのうち，有感地震が3回（最大震度Ⅱ）観測された。なお，雲仙地獄の噴気，地熱などには，特に異常は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	4	5	6
地震回数	41	410	341
有感回数	1	9	5

霧島山（鹿児島地方気象台　5月16日火山情報）

4月18日に霧島山周辺の地熱・噴気地帯および温泉の現地観測を，5月8，9日には新燃岳火口と御鉢火口の噴気地帯の現地観測を実施した。

新燃岳山頂火口内の第6火孔の噴気温度は，前回（1月）より41℃昇温して207℃で，噴気音もやや強くなっていたが，硫黄の付着状況などは前回とほぼ同じであった。なお，この噴気温度は，昭和57年3月13日の208℃（昭和54年に温度測定を開始して以来の最高温度）に次ぐものであった。また，新燃岳外側第2火口の噴気温度は146℃で，噴気孔の形状には，特に変化は認められなかった。

御鉢火口および霧島山周辺の地熱地帯・噴気地帯・温泉等には，特に異常な変化は認められなかった。

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回　数	6	2	3	8	9	14

新新潟焼山（新潟地方気象台　報告）

糸魚川消防署から新潟地方気象台に入った情報によると，5月19日04時50分，山頂部東外壁の噴気孔（昭和24年噴火跡）5箇所のうち，上の方から1，2番目のものの噴煙が多いということであったが，その後の情報によると，09時ころには平常の状態にもどった。

諏訪之瀬島　（諏訪之瀬島分校　報告）

1984年4月　爆発　（12日）
　　5月　〃　（15～18日）

海底火山（海上保安庁水路部の情報による）

海徳海山

変色水視認（4月9日，5月9，10日，6月9日）

福徳岡の場

変色水視認（4月6，23日，5月18日，6月9日）